

■第 20 回日仏海洋学シンポジウム(11/26-30@三重県鳥羽市)・里海セッションで里海づくりについて紹介しました！

11月26日から30日にかけて、三重県鳥羽市で日仏海洋学会主催の「第 20 回日仏海洋学シンポジウム」が開催されました。会場には日本、フランス、インドネシア等の研究者、行政関係者、地域団体の皆さまが集まり、国内外から大変多くの関心をお寄せいただきました。

28日から29日に行われた里海セッションでは、里海づくりに関わる多様な視点から、すべて英語での発表・意見交換が行われ、海外からみた「Satoumi」の様子や取組などとともに、これからの里海づくりを考えるうえで大変充実した内容となりました。

特に28日は以下の通り、国内から令和の里海づくりに関わる話題提供が各30分ずつ行われましたので、それぞれご紹介させていただきます。

● 里海のコンセプトと実践事例の共有

里海づくり研究会議の松田治理事長から、里海の基本的な考え方、国内での広がり、そして三重県志摩市で進められてきた里海づくりの取り組みについてご紹介いただきました。地域に根ざした実践の積み重ねが、今後の里海づくりの方向性を示す内容となりました。



● 環境省の里海づくり事業について

環境省 海域環境管理室の西川室長から、里海づくりに関するこれまでの施策や、今年度の事業の進め方などについて、行政の視点から、全国の取り組みを後押しする仕組みや最新の動きについて共有しました。



● 観光と文化の観点から見た里海づくり

和歌山大学の加藤久美教授からは、持続可能な観光の取組や、伊勢志摩地域に息づく海女文化を通じた里海の価値創出についてビジョンを示していただきました。地域文化と海のつながりを未来にどう伝えていくか、意義深い示唆をいただきました。



● 里海づくりモデル事業からの報告

昨年度の里海づくりモデル事業に取り組んだ NPO 法人 黒潮実感センター(神田優理事長)、NPO 法人 おおつちのあそび(大場理幹代表)から、現場での工夫や成果をご紹介いただき、子どもたちや地域住民との関わり、自然の変化に向き合う姿勢など、活動の魅力と今後への思いが伝わる話題提供をいただきました。



■ おわりに

今回のセッションでは、国内外の研究・行政・市民がともに考える里海づくりの「今」と「これから」を共有する貴重な機会となりました。ご参加いただいた皆さん、また開催にご協力くださった関係者の皆さんに心より御礼申し上げます。